

第5回ナガセケンコー杯

スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選



公益財団法人
日本少年野球連盟

スポニチ

期間 令和7年2月8日(土)15日(土)16日(日)22日(土)23日(日)予備

会場 草薙球場/春野球場/渚園球場/富士ボーイズ専用球場/磐田城山球場

主催 (公財)日本少年野球連盟 静岡県支部
(公財)日本少年野球連盟

協賛 ナガセケンコー株式会社



撮影とSNS投稿の注意事項

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影されます際には、被写体となる方の肖像権にご配慮頂き、個人が特定されるような方法で撮影されないようにお願いします。また、試合内容をSNSなどで公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーにご配慮いただき、これらの無断公表とならないようにお願いします。



⚠️ ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています。



Japan Boys Baseball

野球をしながら
団結・友愛・規律・勇気・忍耐
身につけよう

(公財)日本少年野球連盟定義 第3条

本財団は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の鍛錬とスポーツマンシップを理解させることに努め、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、もって次代を担う少年の健全育成を図ることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟

会長 惣田 敏和

本部 大阪市浪速区日本橋西1丁目3番19号

南海日本橋ビル2F

TEL. 06-6649-0061

第5回 ナガセケンコー杯 静岡県支部春季大会役員名簿

大会顧問	(公財)日本少年野球連盟	会長	惣田敏和
〃	(公財)日本少年野球連盟	特別相談役	堀内 健
〃	(公財)日本少年野球連盟	中日本ブロック長	松本行弘
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県担当理事	杉浦真一
大会名誉会長	ナガセケンコー株式会社	取締役会長	長瀬泰彦
大会会長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部支部長	山本浩士
大会運営委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	鈴木貴司
大会運営副委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部行事委員長	山田 登
大会事務局長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	富樫憲之
大会事務局	(公財)日本少年野球連盟	御殿場ボーイズ代表	芹澤輝充
大会広報委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部広報委員長	瀧澤佳孝
大会IT委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部IT委員長	初山浩志
大会会計委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部会計委員長	宮本浩和
大会審判委員長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判委員長	森重明
大会審判長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判長	高林俊光
大会審判員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部	審判員諸氏
大会運営委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡葵ボーイズ代表	芦澤厚史
〃	(公財)日本少年野球連盟	菊川ボーイズ代表	池田竜司
〃	(公財)日本少年野球連盟	浜松ボーイズ代表	梅谷保彦
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡府中ボーイズ代表	熊切大介
〃	(公財)日本少年野球連盟	浜松修学舎ボーイズ代表	倉島裕貴
〃	(公財)日本少年野球連盟	磐田ボーイズ代表	中村好寛
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	宮本 博之
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	進士佳典

第5回ナガセケンコー杯

スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟秋季全国大会静岡県支部予選

〈開会式〉

令和7年2月8日（土）10:30

草薙球場

来賓・役員・審判員整列

選手入場

国旗・連盟旗掲揚

開会宣言

大会会長挨拶

来賓挨拶

大会注意事項連絡

選手宣誓

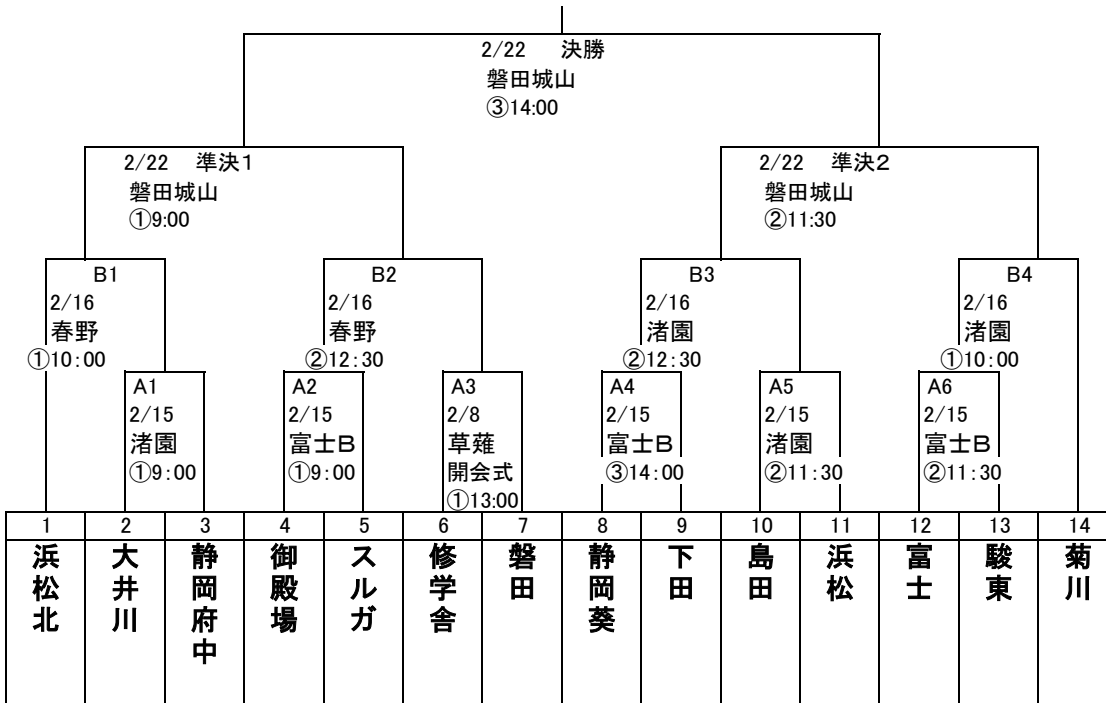
始球式

選手退場

来賓・役員・審判員退場

第5回ナガセケンコー杯スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選

月	日	曜日	確保球場	開門	第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	責任審判員	担当チーム
2	8	土	草薙球場	8:00	A3					静岡府中
2	15	土	富士B	8:00	A2	A6	A4			富士ボーイズ
2	15	土	渚園球場	8:00	A1	A5				浜松ボーイズ
2	16	日	春野球場	8:00	B1	B2				浜松北ボーイズ
2	16	日	渚園球場	8:00	B4	B3				菊川ボーイズ
2	22	土	磐田城山球場	8:00	準決1	準決2	決勝			
2	23	日								



大会規定

- 1・中学生の部のチームの登録選手は11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラーのみベンチに入ることが出来る。但し、チーム責任者、監督、コーチ、選手は登録証を携帯すること。携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻60分前に試合場に到着し、直ちにオーダー表を5部、大会用投球数記録表副3部及び大会初戦の時は、直前大会・練習試合投球状況報告書を大会本部に提出の上、所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先行、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間（決勝戦は2時間）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先行チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデットゲームとする。
 - (2)4回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時）10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7回終了後、同点の場合はタイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
- 11・投球制限について
 - ・中学生の部中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。
 - (1)投手は、1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止とする。
 - (2)大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
 - (3)(1)、(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

(4)連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は登板最終日並びに翌日は捕手として出場できない。

(5)ボークは投球数としない。

(6)雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。

(7)2年生以下が投球する場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

(8)ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合は連続2日間投球した事とする。

また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。※詳細は別紙【投球数制限について】資料参照

(9)日程の変更(地区大会を含む)等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」を次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛てに提出しなければならない。

12・(1)監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。

延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。

(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)

(2)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない

(3)内野手(捕手を含む)が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

(4)監督、コーチが指示を与える時間は、審判員がタイムと宣告してから30秒以内とする。

守備側がマウンドへ行く場合は駆け足で行くこと。

13・1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。但し、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で行くこと)

16・2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ)2組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

20・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

21・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

22・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

23・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

24・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

25・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案しシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

26・シートノックは大会登録選手25名受けることができる。但し試合に出場できるのはメンバー表20名。メンバー表に記載していない選手を出場した場合は以下の処置がとられます。

①試合開始前に判明した場合は、その選手の出場を禁止します。

②試合中・試合終了後に判明した場合は、没収試合となり、相手チームの勝利を与える。

参 考

《 野球規則7.01(4) 》

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《 タイブレイク実施細則 》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は7回あるいは試合開始から2時間を超えて、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

《 AED（自動体外式除細動器）所持の確認 》

・選手審査時にチームはAEDを所持しているか確認すること。

注意) AEDには有効期限があります。AED所持チームは、その有効期限に留意して常に作動できる状態にあるか確認して下さい。

《 投球数制限について 》

「中学生投手の投球数制限統一ガイドライン」の適用例							備 考
	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	第1日目80球、第2日目40球で連続する2日間で120球となったため、第3日目は投手・捕手として出場できない。(また、2日間で80球を超えているので第3日目は捕手して出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、第4日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目が休みだったので、第5日目80球、第6日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	第1日目、第2日目で80球を超えたため、第3日目は投手・捕手として出場できない。 第4日目、第5日目で連続する2日間で80球を超えているため、第6日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	第1日目、第2日目で40球以内の3連投をしているため、第3日目は投手・捕手として出場できない。第4日目は80球のため第5日目は投球した時点から1試合目に登板していても連続する2日間で80球を超えているため、第6日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休※ 捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、*連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は、第5日目は投手・捕手として出場できない。

※数字は投球数。「休」は投手または捕手として出場できない日。「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

大会開催運営に関する注意事項

1. 新型コロナウイルス・熱中症など関連対策

連盟より2024年7月1日付で発行された「新型コロナウイルス等の感染症対策及び健康管理について（新ガイドライン）」を厳守すること。

2. 撮影とSNS投稿の注意事項

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影される際には、被写体となる方の肖像権に配慮いただき、個人が特定されるような方法で撮影しないようにお願いします。また、試合内容をSNSなどに公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーに配慮し、これらの無断公表とならないようにすること。

3. 大会運営方法

(1) 大会運営について

- ・チーム到着時、帰途時の挨拶は「なし」とし、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、及び大会初戦の時は、直前大会・練習試合投球状況報告書を本部受付に提出すること。
- ・試合前審査(道具含む)は、前試合の4回終了までに整列して行う。選手は氏名、生年月日を発声し行う。また試合前のメンバー表交換の集合は球場責任者、審判、監督、主将、チーム責任者で行う。
- ・アナウンスは、当該試合チーム同士で行うこととする。

(2) 試合に関して

- ・ホームベース前は選手のみ整列とし、チーム責任者、監督、コーチ、スコアラーはベンチ前整列とする

(3) 参加チームについて

- ・三脚等、カメラを固定しての動画撮影は禁止

また、手で持ったの撮影についてもバックネット裏は禁止とする。

- ・鳴り物、メガホンを使用するの応援は禁止とする。

以上

新型コロナウイルス等の感染症対策及び健康管理について(新ガイドライン)

【本ガイドラインの目的】

新型コロナウイルスは、昨年5月8日に2類から5類へと移行されて1年が経過し、この間、感染拡大期はあったが、大きな被害はなく沈静化してきたといえる。

しかし、未だにコロナ罹患者にブレインフォグ(極度のうつ症状)等の後遺症に悩まされている方や依然として高齢者や慢性疾患を持っている方にとっては、脅威のウイルスであることには変わらない。

今後とも大規模な新興感染症が起こりうるため、今回改めて、新型コロナウイルス、インフルエンザ等を含めた幅広い日常的な感染症対策をとり、子どもたちの健康管理を行うことを目的とした本ガイドラインに改訂する。なお、このガイドラインに記載している「感染」とは、上記の新型コロナウイルス等感染症に感染した場合を指す。

当連盟として、子どもたちやその家族が安心して野球にとりくめる環境を提供する責務から、本ガイドラインを基本として感染症対策に当たっていくこととする。

1.活動参加に際しての健康管理について

(1)日常的な健康管理

- ①当連盟に参加する全ての関係者(保護者等含む)は、当日の体温を測り、熱・風邪症状等の体調不良が見られた場合は、活動に参加せず、欠席すること。
- ②チーム代表は、社会の感染状況やチーム近辺での感染流行について把握し、選手や指導者を含めたチーム内の健康管理に努め、必要な時にはチーム活動の休止等の措置がとれる管理体制を確立すること。
- ③食事前等、石鹸等による小まめに手洗い、消毒をすること。
- ④各チームは、保健衛生用品として体温計、石鹸、洗剤、アルコール等を常備しておくこと。
- ⑤濃厚接触者の定義はなくなったが、仲の良い友達、家族等同居者が感染した場合は、チーム活動が屋内やベンチ等の密になる場合は、当該選手等に対しマスク着用を勧めるなど代表が適宜判断すること。

(2)感染拡大期等の予防対策

- ①チーム活動当日は、チーム内全ての関係者に発熱や咽頭痛・咳などの有症状者がいないか等の健康管理を徹底し、有症状者が判明した時点で直ちに当該者有症状者を自宅に帰す等の措置をとり、受診を勧めること。

- ②バス及び自家用車の相乗り等の移動時には、常時換気を行い、出来ればマスク着用を推奨する。
- ③宿舍内は換気をこまめに行うこと。感染が疑われる場合等はチームとしてマスク着用について適宜判断すること。

2.感染者の取り扱い等について

(1)感染者の活動欠席期間について

学校保健法施行規則では、出席停止の期間の基準を「発症した後五日を経過し、かつ、症状が軽快した後一日を経過するまで」と規定しており、これを適用する。発症日の翌日起算。

(例) 7月2日に発症、7/3が第1日目となり7/6が5日目となり、7/6の朝に軽快したとしたら、7/7の朝以降からチーム活動に復帰できる。7/5までに経過していた場合は7/6から参加できる。なお、無症状者の「発症」日は従前から検査した日と規定されている。

(2)チーム活動停止の検討について

①所属する選手が20名以上のチームは指導者含めてチーム人数の2割の感染者を出した場合、チーム活動の停止を検討し、停止する場合は2日間経って他に感染者が出ていないか確認し、健康管理の上、問題なければ活動を再開する等、停止期間については有無を含めてチーム代表が判断する。

②所属選手20名未満のチームは5名以上感染者が出た場合、上記の2-(2)-①適用する。

3.主催大会等の規則

(1)通常時

大会時の規定はコロナ禍以前の現行の連盟規約、大会規定、大会運用細則等を適用する。

(2)感染拡大期等

①感染拡大期等は、第1項-(2)「感染拡大期等の予防対策」を適用すると共に、大会審査時における選手の氏名等の声出しを中止するなど主催者が過去の経験と従前のガイドラインの対策を参考に社会の感染状況に合わせて、適用範囲を明確にし適宜判断する中で感染拡大の防止に努めること。

②大会欠場について、大会主催者は、第2項一(2)「チーム活動停止の検討について」の基準により、感染者が出た当該チームを欠場とさせることができる。

※感染拡大期とは、「第10波」等の「波」で象徴される社会での大流行期を指し、感染拡大期等は、チームにおいては、チーム内で複数人感染が判明したり、選手が通う学校で学年・学校閉鎖が起り、放置するとチーム内での感染拡大が危惧される場合を指す。

投手投球数制限の運用細則

令和3年7月3日
(公財) 日本少年野球連盟

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表(原本)」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は○点、投球数は○球です。なお、△□投手の総投球数は○球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚)を作成し球場責任者提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投手投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚)を引き継ぎ、球場責任者は「投球数集計表(原本)」を保管する。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

撮影とSNS投稿の注意事項

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影されます際には、被写体となる方の肖像権にご配慮頂き、個人が特定されるような方法で撮影されないようにお願いします。また、試合内容をSNSなどで公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーにご配慮いただき、これらの無断公表とならないようにお願いします。

浜松修学舎ボーイズ

駿東ボーイズ

スルガボーイズ

浜松北ボーイズ

代表	倉島 裕貴	代表	鈴木 貴司	代表	靱山 浩志	代表	富樫 憲之
監督	宮澤 明聡	監督	松尾 良太	監督	工藤 隆	監督	山道 伸之
コーチ	辻岡 裕汰	コーチ	中川 清猛	コーチ	椎田 清隆	コーチ	絵鳩 隆雄
マネージャー	佐藤 二郎	マネージャー	岩崎 望	マネージャー	池谷 悟	マネージャー	渡邊 裕文
4	主将 山下 唯斗 2年	9	主将 山本 妃奈 2年	22	主将 吉野 瑛翔 2年	89	主将 絵鳩 大河 2年
2	田口 湊楽 1年	4	岩崎 晴空 2年	3	池谷 希夢 2年	0	秋山 寛翔 1年
3	松下 栄琉 1年	5	鈴木 佑 2年	4	渡邊 大地 2年	6	島村 琉聖 1年
5	藤田 奏 1年	6	長澤 幸希 1年	5	竹内 徠斗 2年	8	小笠原 大和 1年
6	渡辺 一伍 1年	13	福沢 悠 2年	6	八巻 行正 2年	12	藤田 彪真 2年
7	伊原 幸汰 2年	14	山口 剛虎 2年	8	横山 幸生 2年	15	中村 武琉 2年
8	金原 柚 1年	19	松見 新太 2年	17	古見 颯人 2年	19	西 秀虎 2年
10	手塚 勇虎 1年	20	土屋 恭平 2年	18	永沼 良太 2年	22	井口 琥太郎 2年
11	野末 樹 2年	21	大庭 都和 2年	19	青沼 剣吾 2年	23	伊藤 凌一 1年
12	白鷺 拓弥 1年	22	鈴木 陽楽 2年	20	松本 蒼太 1年	27	渡邊 健介 2年
17	近藤 晴輝 2年	23	難波 燈空 2年	25	房 睿 1年	30	高林 陽宜 2年
18	和田 脩吾 2年	24	永塚 陽向 2年	27	橋本 将希 2年	33	安川 凜音 2年
22	鈴木 嬉音 2年	25	米倉 真毅斗 2年	28	鈴木 大也 2年	37	加藤 佑來 2年
23	加藤 伶八 2年	33	菊間 壮佑 2年	35	北原 健志郎 1年	40	仲山 航生 2年
		42	堀内 鉄匠 1年	51	鈴木 司 2年	42	菅原 慶太 2年
		44	前田 遼斗 1年	54	関 緑里 1年	44	大柳 翼 1年
		45	岩崎 龍空 1年			47	由比藤 新 1年
		47	繁松 由空 1年			49	齋藤 倅次郎 1年
		51	伊山 莉叶 2年			70	鈴木 大駕 2年
		81	桃野 颯斗 2年			74	室内 蓮叶 2年
		99	大森 朝陽 1年			75	堀内 陽登 2年
						80	乗松 聖羅 1年
						81	内藤 志音 2年
						86	長谷川 翔大 2年
						88	絹村 遼 2年

下田ボーイズ

静岡葵ボーイズ

静岡府中ボーイズ

大井川ボーイズ

代表	宮本 浩和	
監督	渡邊 夏樹	
コーチ	臼井 悠介	
マネージャー		
6	主将 鈴木 夢人	2年
1	石井 世夏	2年
2	後藤 嵐	2年
3	阿部 蒼大	2年
4	後藤 虎太郎	2年
5	臼井 煌一郎	1年
7	太田 麦	1年
8	菊池 春来	2年
9	佐藤 煌華	2年
10	久住 晴道	2年
11	矢野 道	1年
12	木村 八起	1年
13	石坂 旭	1年
14	千島 陽菜斗	1年
15	堤 蓮王	2年
16	八代 煌月	2年
17	唐島田 泰	1年
18	唐島田 芽衣	1年
19	伊藤 春	2年
20	内山 遥仁	1年

代表	芦澤 厚史	
監督	池谷 謙太	
コーチ	佐野 文哉	
マネージャー	西ヶ谷 圭介	
6	主将 石垣 温暉	2年
2	濱田 慈仁	1年
4	遠津 悠斗	1年
5	曲田 和樹	1年
7	中川 太陽	2年
9	杉山 蓮祇	2年
10	佐藤 新	2年
12	山下 開世	1年
14	佐野 愛太	1年
18	佐野 光星	1年
19	青木 善	1年
21	原田 星亜	2年
22	宮地 優和	2年
23	佐藤 大真	1年
24	長利 怜皇	1年
26	杉本 麗悟	1年
34	佐藤 陸人	1年
41	西ヶ谷 莉園	1年
47	宮部 明日斗	1年
51	川口結衣	1年
55	倉永 夏希	2年
83	有賀 夢生	2年

代表	熊切 大介	
監督	望月 淳	
コーチ	松永 康裕	
マネージャー	大畑 真也	
6	主将 法月 暖真	2年
2	山際 敦仁	2年
3	森 啓人	1年
4	曾根 空柁	2年
5	寺田 遥斗	2年
7	森下 寛大	1年
9	渡邊 大和	2年
10	青木 佑陽	2年
11	蓬生 晴人	2年
12	堀江 悠斗	2年
13	里見 颯祐	1年
14	板倉 悠晟	1年
15	飯塚 陽翔	1年
16	富永 太市	2年
17	増田 愛海	2年
18	佐藤 蒼真	2年
19	府川 真大	1年
20	鈴木 瑛人	2年
21	澁谷 灯歩	2年
22	小長井 優誠	2年

代表	森重 明	
監督	袴田 晋矢	
コーチ	笹山 大輔	
マネージャー	伊藤 謙佑	
2	主将 青野 晁大	2年
0	高田 颯	1年
1	大倉 一紗	2年
4	菊地 流星	2年
5	伏見 航星	2年
7	滝浪 茉奈	2年
9	大 井健翔	1年
19	中山 颯	2年
21	望月 康太郎	2年
22	園田 彪馬	1年
23	岡村 遥真	1年
27	内田 周汰	2年
34	杉浦 拓実	2年
35	鈴木 梁太	2年
38	北川 雅	2年
41	竹下 想生	2年
55	岸端 一樹	2年
59	曾根 希海	1年
66	太向 響	2年
99	三浦 香穂	1年

磐田ボーイズ

代表	中村 好寛
監督	吉村 正之
コーチ	中山 泰成
マネージャー	齋藤 隆太
10	主将 村松 蓮介 2年
2	長谷川 侑世 2年
3	戸塚 陵太 2年
8	山口 瑛大 2年
9	密岡 大隼 2年
11	伊藤 千里 2年
17	廣岡 叶翔 2年
19	高橋 祐翔 1年
21	久保 智 2年
24	安間 蓮輔 1年
30	杉本 優大 1年
38	井熊 泰久 2年
39	大石 徠翔 1年
45	竹下 綾也 1年
51	萩原 煌馬 2年
52	大原 侑馬 1年
55	西尾 颯馬 1年
56	小倉 陽虎 2年

菊川ボーイズ

代表	池田 竜司
監督	鈴木 修平
コーチ	後藤 英希
マネージャー	横山 春満
72	主将 竹内 蓮 2年
20	島内 喜成 2年
22	植村 大誠 2年
30	牧野 蒼太 2年
34	山崎 亓新 2年
36	柳澤 蒼介 2年
38	磯部 勇斗 2年
39	加藤 蒼稀 2年
41	松井 倅晟 2年
42	木ノ戸 望煌 2年
43	松井 稜芽 2年
45	阿野 斗哉 2年
46	山下 雄大 2年
49	荒木 湘吏 2年
52	藤田 莉生 2年
53	曾根 勇斗 2年
56	海福 大和 2年
61	紅林 耀斗 2年
62	天野 豊 2年
65	横山 唯月 2年
66	山崎 愛斗 2年
67	渡辺 晴大 2年
74	齋藤 遥大 2年
77	和田 奏亮 2年
78	内山 斗夢 2年

富士ボーイズ

代表	瀧澤 佳孝
監督	瀧澤 将美
コーチ	栗田 靖之
マネージャー	深瀬 一樹
29	主将 渡邊 優 2年
2	吉田 隼梧 1年
3	湖山 知承 1年
4	栗田 和城 2年
6	因石 隼士 1年
9	芦澤 隆太 2年
21	仁藤 理徠 1年
23	仁藤 蒼良 1年
25	矢野 雄晴 1年
33	岩見 紘之進 1年
51	勝又 諒 1年

御殿場ボーイズ

代表	芹沢 輝充
監督	松田 碧海
コーチ	横手 幸太郎
マネージャー	松田 幸夫
2	主将 勝俣 拓真 2年
1	山下 晋太郎 2年
3	杉山 琉晟 2年
4	宮崎 遥也 1年
5	湯山 聡士 2年
6	貞廣 航汰 2年
7	植田 友惺 2年
8	坂口 太絆 2年
9	小野 賢人 1年
10	金子 颯汰 2年
11	岩本 颯太 1年

島田ボーイズ

代表	山田 登
監督	鈴木 亨
コーチ	飛弾野 清治
マネージャー	奥津 和長
10	主将 鈴木 瑛介 2年
4	鈴木 琉斗 2年
12	高橋 玲 2年
16	増田 慧太郎 2年
19	上田 淳吾 2年
20	成岡 来翔 2年
24	宮城 吏玖 2年
26	辻村 聡太 2年
27	萩原 颯士 2年
33	坂田 吟次 2年
34	高橋 凌 2年
35	澤口 修次 2年
36	大川 銀士 2年
37	浅原 要 2年
38	横山 紘 2年
39	中原 琥優 2年
44	加藤 旭陽 2年
52	二木 愛侑斗 2年
56	辻村 悠汰 2年
61	大石 楓士 2年
62	藤本 翔太郎 2年
66	宮城 富士 2年
77	袴田 幸次郎 2年
82	加藤 夢都 2年

浜松ボーイズ

代表	梅谷 保彦
監督	60 中村 永司
コーチ	50 秋山 佳史朗
マネージャー	畑中 紳吾
5	主将 河合 暉 2年
0	澁谷 旺祐 2年
1	長倉 壮太 2年
2	安間 優輝 2年
3	白木 恭平 2年
4	伊藤 優臣 2年
6	中尾 紫音 2年
7	中村 悠人 2年
8	尾崎 瑠偉 2年
9	藤田 晃輝 2年
10	佐伯 虎志朗 2年
11	杉田 昊輝 2年
12	鎌田 翔介 2年
13	鈴木 哉多 2年
14	久米 煌河 1年
15	袴田 鳳雅 2年
16	梅谷 大翔 2年
17	伊藤 愛琉 2年
18	奥田 大翔 2年
19	藤原 慶太 2年
20	仲秋 蓮輝 1年
21	小林 大士 1年
22	野田 心一 1年
23	彦坂 琉羽 1年
24	竹下 瑛人 1年